



蒜高タイムズ

70号
毎月25日発行
H22. 1. 25
蒜山高校 教務課

Tel:66-2016

hiruzen07@pref.okayama.jp

美術部 美作地区高等学校美術部展に出品

十二月十九日と二十日の二日間、アルネ津山で美作地区高等学校美術部展が開かれました。本校からは十三人の部員が絵画を中心に出品し、中にはペーパークラフトや小さなスイトンを制作した生徒もいました。特に、スイトンは美術部顧問の先生方に大人気で、蒜山のスイトンを新たに知っていただく良い機会にもなった気がしています。来年は作品の規模をもっと大きくしたり、数ヶ月かけて制作したりといった方法に挑戦してみると、美術部としての活動の幅が広がるかもしれません。なお、本展で三年生・池田早希さんの作品が佳作を受賞しています。



合同トレーニング (二月十九日～二十日)

第三回運動部合同トレーニングが開催されました。一・二年生の運動部員約二十名が体育館で汗を流しました。サーキットトレーニングやフットサル、20mシャトルランを行い、健康の保持増進と体力の向上を図りました。また、金曜日には植木エアロビクス・ジャズダンススタジオから植木たつ子先生にお越しいただき、エアロビクスを行いました。部員数が少ない中ではありますが、体力向上だけでなく個人個人のトレーニングに対する意識の高揚と実践力を少しでも養ってもらえればと思います。

スキー部の活躍!

一年生の小椋翼くんが、スキー競技で大活躍しています。

第48回岡山県高等学校総合体育大会岡山県予選スキー大会

男子クロスカントリ115kmフリー 第一位

男子クロスカントリ110kmクラシカル 第一位

男子総合の部 第二位 岡山県立蒜山高等学校

平成21年度岡山県体育大会兼第65回国民体育大会冬季大会スキー競技会岡山県選手選考会

少年男子10kmクラシカル 第一位

一月二十八日には、右記の表彰式および第59回全国高等学校スキー大会出場への壮行式が行われました。



食事会(二月十九日)

三年生の生活科学コースのフードデザインの授業で、日頃お世話になっている教頭先生と三年団の先生を招き、食事会を開きました。作ったメニューはグラタン、野菜の肉巻き、皿うどん、オムレツ、肉団子汁、エビと野菜の中華炒め物、じゃこ飯、サンドイッチ、サラダ、ガトーショコラ、イチゴのケーキなどです。先生方がどのような料理を好まれるか考え、メニューを決めることから三年生生活科学コースの生徒が行いました。先生方と一緒に食事をするので、ゆっくりお話もでき、楽しい時間を過ごすことができました。



2月の予定

- 8日(月)午後～10日(水)生徒登校禁止
- 19日(金)3年生登校日
- 26日(金)3年生登校日、卒業式予行

3月の予定

- 1日(月)卒業式
- 2日(火)～5日(金)1・2年生学年末考査
- 10日(水)～12日(金)、15日(月)生徒登校禁止
- 19日(金)終業式
- 26日(金)新入生オリエンテーション

二学期始業式(二月八日)

三週間の冬休みを終え、蒜山高校にも生徒の活気が戻ってきました。生徒のいない学校はやはり寂しいものだと感じると同時に、みんなの元気な姿を見ることができて嬉しい限りです。

校長先生は式辞の中で、「二年の計は元日にあり。今年こそはこれをやりたいという強い意志を持って歩んでいきましょう。バレー部、バドミントン部、卓球部など、部員数が少ないというハンデがあるにも関わらず、新年早々から意欲的に活動しています。部活動の火も絶やさず頑張り続けていきましょう。三月一日には卒業式があります。例年素晴らしい卒業式になっていますが、今年には是非とも校歌で卒業式をもっと盛り立てて欲しいと思います。スイトン製作についても、保護者の方の協力もあって進行していますが、生徒のみんなの有志を含めて完成させたいと思います。前生徒会長の白川君が演説の中で、「笑いでいっぱいになるような学校にしたい」と語ってくれましたが、「笑い」というのは大切です。是非、今後の進路先でも生かして欲しい。遺伝子というのは一生変わらないというものではない。ON・OFFのスイッチがあって、このスイッチをONにすることが大切です。ONにする要素は「笑い・志・感動」です。みんなにも遺伝子のスイッチをONにする生き方をして欲しい。」と締めくくられました。

その後、美作地区高等学校美術展に入賞した、池田早希さんの表彰伝達式が行われ、そこで校長先生は、「みんなもいろいろな力を持っています。高校三年間で培った特技や長所を伸ばして生きていくください。君たちは君たちが思っている以上に素晴らしい。」とおっしゃってくださいました。

二学期終業式(十二月十七日)

いよいよ雪も降り始め、本格的な冬の到来を感じる寒い中、二学期終業式が行われました。式に際し校長先生は「秋季球技大会では三年生の吉野君が、「もう他に出ていない人はいない?」と三年生に声をかけていました。三年生にとっては最後の球技大会。三年生全員が先生方と試合をしたという思いを強く感じたことと、それを見守ってくれる一・二年生達を見て、今の蒜山高校の暖かい雰囲気を感じていると感心しました。今年も例年になく、学校が活気付いた一年でした。一つは「3Qたいむ」の全員での取り組み。もう一つは生徒会を中心とした学校行事。この二つを通して生徒の無限の可能性を感じることができました。三学期の「3Qたいむ」をもっと良いものにしていくことを思います。」とおっしゃってくださいました。その後、ワープロ検定・情報処理技能検定・英語検定合格者に加えて、バレーやバドミントン部の活躍や生活科学コースのボランティア活動による地域貢献、朝掃除を自主的にしている三年生へのねぎらいなど、生徒一人一人の名前を呼んで激励して下さいました。最後に、生徒の「心のおと」の中にあつた項目について触れられ、「幸せとは、身近にあるもの。自然体の自分自身へ向き合うことで感じることでできるものである。あるいは、そういう心の持ち方を獲得することこそが幸せな行き方かも知れないですね。」と締めくくられました。

今年も、一足早い終業式の模様テレビ取材されました。外は例年に比べ遅い雪景色でしたが、生徒みんなの学校生活が円滑に進むよう、二学期の間は、雪も降るのを少し待ってくれたように感じさせてくれる蒜山の自然が、より一層好きになった日になったのではないのでしょうか。